



岡山大学記者クラブ、文部科学記者会、科学記者会 御中

令和 4 年 12 月 22 日

岡 山 大 学

大学生の自覚的口腔健康観は 9 年間で改善し、 う蝕や歯肉出血、口腔衛生状態、歯磨き回数と関連することを発見

◆発表のポイント

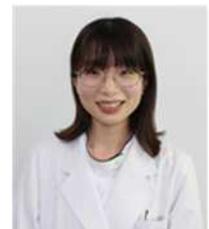
- ・ 自覚的口腔健康観は QOL（生活の質）や口腔関連 QOL と関連していると言われています。
- ・ しかし、大学生の自覚的口腔健康観の経年的な傾向や関連因子の影響について注目した研究はほとんどありませんでした。
- ・ 2011～2019 年の調査の結果、自覚的口腔健康観は 9 年間で改善し、未処置歯数、処置歯数、歯肉出血、口腔衛生状態、歯磨き回数、性別と関連していることが明らかになりました。

岡山大学病院歯科・予防歯科部門の中原桃子医員、岡山大学学術研究院医歯薬学域予防歯科学分野森田学教授らの共同研究グループは、大学生の自覚的口腔健康観が 2011 年から 2019 年の 9 年間で改善したこと、また、自覚的口腔健康観は未処置歯数、処置歯数、歯肉出血、口腔衛生状態、歯磨き回数、性別と関連していることを明らかにしました。この研究成果は 2022 年 10 月 20 日、スイスの学術雑誌「*International Journal of Environmental Research and Public Health*」に掲載されました。

自覚的口腔健康観は、主観的かつ包括的な口腔健康状態の指標であり、QOL や口腔関連 QOL との関連が報告されています。自覚的口腔健康観の関連因子は QOL に影響を与える可能性があります。歯科疾患の早期発見だけでなく、自覚的口腔健康観を早期に制御することも、若者の QOL 向上に重要であると考えられます。

◆研究者からのひとこと

自分の口腔の健康をどう認識しているかが、QOL に関係することが知られています。痛みなどの症状があればう蝕に気付ける場合がありますが、初期う蝕や歯肉炎、歯周炎などの口腔疾患は、自覚のない間に進行してしまうことも多いです。口腔内の異変や状態の悪化を放置せず、予防のための行動（高濃度フッ素入りの歯磨き粉の使用・甘味制限・丁寧な歯磨き・定期健診など）を心掛けてもらえたらと思います。



中原医員



PRESS RELEASE

■論文情報

論文名：Trends in Self-Rated Oral Health and Its Associations with Oral Health Status and Oral Health Behaviors in Japanese University Students: A Cross-Sectional Study from 2011 to 2019

掲載紙：International Journal of Environmental Research and Public Health

著者：Nakahara M, Toyama N, Ekuni D, Takeuchi N, Maruyama T, Yokoi A, Fukuhara D, Sawada N, Nakashima Y, Morita M

DOI：10.3390/ijerph192013580.

■補足・用語説明

※1 自覚的口腔健康観：アンケートで「あなたは口の健康状態をどのように思いますか？」という質問を行い、「1：良くない、2：あまり良くない、3：普通、4：まあ良い、5：良い」という5段階での回答で評価を行ったもの。

<お問い合わせ>

岡山大学学術研究院医歯薬学域（歯）

予防歯科学 教授 森田 学

（電話番号）086-235-6712

（FAX）086-235-6714



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。